研究課題(テーマ	ジョブローテーション 発達のプロセス	ジョブローテーション経験がもたらす中小規模市町村保健師のキャリア 発達のプロセス				
研究者	所 属 学 科 等	職	Į.	氏	名	
代表者	看護学部看護学科	講師	朝倉 理映			

研究結果の概要

【背景】

ジョブローテーションは、人材育成計画に基づき、様々な職場において経験を積むことを目的として定期的に職務の異動を行うことと言われており、職場環境の変化や職務内容の変化だけではなく、仕事が人を育てる効果を期待して行われる異動であるが、保健師の人材育成計画が厚生労働省等から提示されるようになったのは最近であり、ジョブローテーションという概念が保健師の中に定着していなかった。そのため、保健師のジョブローテーションに関する先行研究は少なく、中でもジョブローテーションの人材育成システムに関する研究は皆無であり、研究テーマとしても今後の課題となっている。

【目的】

本研究の目的は、ジョブローテーションを経験した中小規模市町村保健師のキャリア発達のプロセスを明らかにすることによって、行政保健師における人材育成の基礎資料とすることである。本研究では中小規模市町村を人口規模が概ね 10 万人程度までとした。

【方法】

I. 研究デザイン

半構成的面接法による質的帰納的記述研究

- Ⅱ. 対象
- 1) 対象者の選定及び概要

A 県市町村 (人口規模が概ね 10 万人程度まで) で働く、2 回以上課を超えて異動した経験のある保健師 10 名程度

2)対象者の条件

この調査における市町村保健師の条件として、(1)保健師の職位は問わないこと(2)本庁と 保健所や、本庁内でも保健部門や福祉部門といった課が変わる異動を経験している者(3)ジョ ブローテーション時期は問わない、という三点に該当する者

Ⅲ. データ収集期間

令和4年9月20日富山県立大学「人を対象とする研究」倫理審査部会承認後、11月よりインタビュー調査を開始した。令和5年3月末時点で5名のインタビュー調査を終了した。

Ⅳ. データ収集方法

1) インタビュー前の質問紙による属性調査

属性調査の内容は、年齢、経験年数、最終学歴、職歴、異動回数、異動間隔、異動時の経験年数、 異動部署、異動内容、役職の 10 項目

2) インタビューガイドを用いた半構成的面接の内容

インタビューガイドを用いた半構成的面接を行った。インタビュー中は、対象者の同意を得て、IC レコーダーによる録音を行い、それをもとに逐語録を起こし、データ分析を行った。

質問項目は

- (1) 今までのジョブローテーション経験を語ってください
- (2) ジョブローテーションで何か変化したことはありますか 可能であればジョブローテーションの経験ごとに語ってください
- (3) また、その変化は何が影響していると考えますか
- (4) ジョブローテーションが今の保健師キャリアに与えたものはありますか
- (5) その内容はどのようなことですか
- (6) 今までのジョブローテーションにどのようなフォローが有効でしたか
- (7) ジョブローテーションに、どのようなフォローが効果的であると思いますか

V. データ分析方法

インタビューで得られたデータを木下の Modified Grounded Theory Approach の手法を用いて分析を行っている。

【結果】

富山県内中小規模市町村保健師 5 名のインタビュー調査を終え、ジョブローテーション経験が中小規模市町村保健師のキャリア発達にどのように影響しているか、また、どのようなことが関係しているか等明らかになってきた。

自治体によりジョブローテーションのあり方が異なる点もあるが、キャリア発達のプロセスでは共通する点も認めた。

研究代表者が行った先行研究と比較して、一致する点もあるが、対象者が県や政令市・中核市といった自治体と中小規模自治体という特徴の差異から、相違点もあるように感じた。しかし、インタビュー数が5名であり、理論的飽和に達していない現状がある。

今後の展開

理論的飽和に達していないため、インタビュー調査を令和5年度も継続実施予定である。 令和5年度に本研究の成果発表として、学会発表及び論文投稿を行う。

また、本研究結果を基盤研究として、科学研究費助成事業に採択された「行政保健師のキャリア発達に効果的なジョブローテーション人材育成システムの構築」の研究を継続して行う。